
ストレリチアの契約

ほとす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ストレリチアの契約

【Nコード】

N3577I

【作者名】

ぼとす

【あらすじ】

かつて魔王と呼ばれたモノと、セルミディア国王は契約を行った。

「古代に存在したという魔術の復活を。そして我にその力を」

魔王は王に契約の刻印を与え、魔術を思いのままに使わせた。

その力によって王は巨大なストレリチア帝国を築くことになる。

そして魔王が求めた契約の代償は、人としての暮らしを謳歌する

というものであった。

この小説は、それから300年後にようやく魔王が人として暮らし始める話です。

契約の終わりと始まり

帝都のはずれにある小さな祠には、神のお告げを聞くという巫女がいた。

神はストレリチア帝国に起こる災いを巫女に伝え、それを克服するための聖なる力を王族へ与えたという。

だが時を経てその声を聞ける巫女は居なくなり、祠は教会にも王家にも見向きされなくなった。

祠から巫女が消え、すでに50年以上経っている。

巫女の本当の意味を知るものは、もはやどこにも存在しない。

淡い光が灯る祠に闇の塊が突如現れる。

闇は己の意識を念に纏め上げ、狭いとも広いともつかぬ祠中へと発する。

『巫女よ。全ての闇と光の力を司る我の声を聞きし巫女よ』

音無き声を受け取る者は居らず、祠の中で消されてしまう。

『……おーい』

再び闇は念を送るも、返事など返ってこない。というか誰も居な

い。

『久々に会話をしようとしてみれば。

まあいい。これで契約は破棄されたわけだな』

闇は意識を世界に向け、かつて自分が契約した王の血縁者を探す。年月が経っているだけあって数は多かったが、契約の印を宿しているで見つけやすかった。

その中から血が濃く年若い者を選別していく。

赤子が理想的だったが、生憎契約を執行するには薄すぎる血にかいないようだ。

一番血の濃い男は50代に差し掛かっていたので却下。その子供ならばと意識を向けると、やたらと見つかった。母親が違う子供たちが。

『……好色め』

13人の子供達のほとんどが父親より契約の血は薄まっていたが、一人だけ父親と同等の濃さを持っているものがいた。

16歳と少々育ちすぎてはいたが、おっさんよりはましたとその少年に決めてしまった。

少年が居る場所に闇を発生させ、その体を飲み込ませる。

こちらへ体を引き渡せ。黒き契約の印を持つ者よ。

初代ストレリア帝王となされた契約は、魔術の復活。

古代に失われたとされる魔術を力に、国々を纏め上げるといってものだった。

当時は小さなセルミディアの国王に過ぎなかった男が、その魔術によつて平和を作り上げたことは伝説である。

だが、王が行った契約について正確に知る者は少ない。

何も無かった祠に、愛らしい顔立ちの少年が現れる。

それがかつて魔王と呼ばれ、現在では神と崇められているモノへの、契約の代償であった。

契約の終わりと始まり（後書き）

不定期連載となります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3577i/>

ストレリチアの契約

2011年1月5日02時24分発行